

第 25 回日本磁気共鳴医学会大会 学術優秀展示大会長賞

板井 悠二

第 22 回大会の能勢大会長の時から優秀学術展示に対し大会長賞が贈られるようになった。しかし大会で表彰されても会員諸兄姉に広くアナウンスされることもなく、その内容についても抄録以外の記録はない。今回は大会長がたまたま学会誌編集委員長であったため、記録としてその内容を学会誌に掲載することとした。

大会長賞は 90 題のポスター展示より二日間終了の時点で今回のプログラム委員 (39 名)、実行委員 (10 名、2 人ダブリあり) により、2 名連記の投票によった。約 20 題に一つ位を目安とし、上位 4 人を大会長賞とした。選考自体本学会で今一つの問題となっている MD-non-MD, radiologist-non-radiologist の比率を学会運営にどう反映し、またどう修正した比率が好ましいのかということのミニチュア版にならぬかという杞憂もなくはなかったが、幸い適当にバラけた結果となった。ただし basic な仕事が大学院生の radiologist がやったもので、これは PhD 的な仕事であるので、そのように読み替えた。

選考の眼が正しければこれらの展示は一流誌に掲載されることとなろうし、それに現状の本学会誌が加わる可能性が高くないのは残念だが事実である。

そこで受賞者の方々にはあくまで記録として載せること、しかし図表そのものは投稿受理前に使われていると問題が起り得るかもしれないので十分配慮してほしい旨但し書きをつけ、記録作製をお願いをした。全員揃って載せられるにこしたことはないので、真っ先に送っていただいた方には大分お待ち願うこととなったが、御寛容いただきたい。

第 26 回大会でどのように大会長賞を扱うかはその大会長にまかされているが、少しずつ軌道修正をし、ほぼ一定方式になることが一般的には好ましいと思う。

会員諸兄姉も次の大会には多数の展示も応募いただき、質のより高い論文をこの学会誌にもお寄せいただくことを期待し、記録の由来説明の結びとしたい。